

浜松観光ボランティアガイドの会

浜松市「姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館」紹介

私は、昨年4月から標題の資料館の仕事に携わっておりますので、観光客等から資料館についてご質問いただいた場合に参考になればと思い寄稿させていただきました。



姫街道資料館入口部分

主な展示品目

<1階 民俗資料>

①三ヶ日の備後蘭(びんごい)(浜名表)の織機、馬込川河口付近の太蘭の織機、細江町の琉球蘭(七島蘭・三角蘭)の栽培、経糸(たていと)となるイチビとそれを撚ったカイソ、遠州表の織機3種類、競りの道具類等 ②浜名湖でボラ、スズキをとった罟目(かくめ)網漁の大網船と各種漁具類

<2階 歴史資料>

①銅鐸(細江町出土9個の内5個、浜松市都田出土1個、複製品2個、写真2点) ②滝峰才四郎谷銅鐸出土状況展示 ③銅鐸の谷と弥生遺跡のジオラマ ④姫街道と東海道のジオラマ ⑤江戸時代の遠江国絵図 ⑥その他(細江津波来襲図・奥山方広寺参拝古道図・今切れ口古図等々) ⑦特別展示室(適宜変更)

<私の解説例>



姫街道と東海道のジオラマ

所だったとわかります。

またこのジオラマにある新所原台地から磐田原台地までが二俣町を要とした天竜川の作った扇状地であることを知ってもらいます。浜名湖のあたりは地震の度に陥没を繰り返してついには湖となりやがて海とつながり汽水湖となりました。磐田見附、浅羽町のあたりは隆起を繰り返して、大きな入り江が無くなっています。(浜名湖の地勢の変化については「庄内史談」の絵図を見せて説明をし、大地震については「千年に一度の大地震・大津波に備える」(静岡県文化財団刊)に基づいて予測します。

さらに暴れ天竜は浜北平野を削りだして今日の地勢にいたることを説明します。横須賀湊のことを書いた文書が「遠江国絵図」に載っていますと言ってそちらに移動します。<その他の展示物(特に謎の多い銅鐸)>についての解説は字数に余裕がありませんのでここでは省きます。

資料館は北区細江町気賀にありますので、来てくだされば私のわかる範囲で説明いたしますので、ぜひ一度おいでください。



銅鐸の並ぶ資料館2階の様子

「姫街道と東海道のジオラマ」の所で見附宿と御油

(ごゆ)宿のポイントを点灯し、姫街道は奈良時代の律令制を確立するために出来た官道であることを申し上げ、なぜこの二カ所に国府を作ったのか?を考えてもらいます。国府は警察、税収、裁判などの機能を合わせ持った役所ですから互いに連携をとる必要がありました。御油の方は「二見(ふたみ)の道」でわかるように東海道、姫街道の分岐・合流する交通の要所です。その点は見附も同じですが、見附の場合はさらに地形が関わってきます。奈良時代の地勢図(磐田市埋蔵文化財センター)を見せて、大之浦と見附湊の存在をわかってもらいます。水運、海運の時代に見附は国府造営に最適な場

浜松城二の丸御殿遺構の発掘調査

浜松市は9月13日、旧元城小学校跡地で実施している浜松城跡の発掘調査において、二の丸御殿とみられる建物基礎を発見し、その詳細な構造が明らかになったと報道発表がありました。調査成果は、9月15日から浜松市のホームページで公開されていますが、以下に浜松市市民部の報道発表記事をベースに概要をまとめてみました。

尚今回の43次調査の現地の一般公開は、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しないとのことです。



発掘場所遠景（ブルーシート部分）

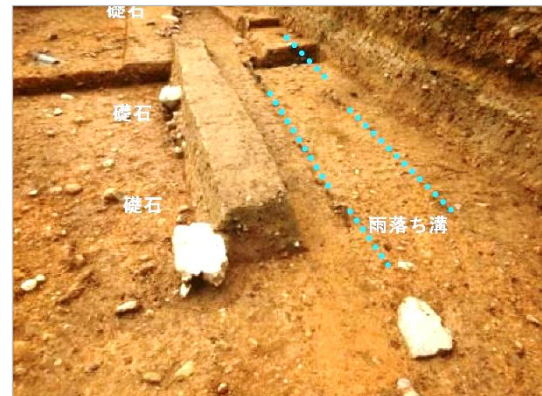
今回の調査は、文化財課の令和3年（令和3年6月から令和4年1月まで）「浜松城公園長期整備構想に関わる確認調査」として行われたもので、令和元年から旧元城小学校跡地の発掘調査を実施した令和元年度（26次調査）、同2年度（35次調査）の成果を踏まえたものです。

二の丸御殿は、江戸時代の浜松城における中心的な建物で、政務を執り仕切る政治空間「表御殿」、藩主の生活空間である「奥御殿」で構成されており、

明治時代初頭の廃城時まで現存していました。

確認された遺構は、柱を支える礎石や礎石の据え付け穴、雨落ち溝（軒先の雨水受け溝）などで礎石と礎石の中心間の距離は約2m、建物は6尺5寸（1.97m：京間）を基準に設計されていました。当地域において、京間を基準に用いることは、比較的古い時期に多く見られる特徴であり、今回検出した建物遺構は、江戸時代の二の丸に建てられていた御殿の基礎にあたると考えられるとのことです。

また、礎石が東西に並ぶ北側には、瓦で側面を囲った溝が総延長4mほど確認できました。これは、軒先の雨水を受ける「雨落ち溝」とみられることから、今回検出した御殿基礎は、北側に開けた部分にあたることも判明したとのことです。



発掘成果概要（浜松市文化財課提供）

広報部 植田善和（北ブロック）

犀ヶ崖でテレビ取材 偉人・素顔の履歴書 武田信玄

9月10日（金）、犀ヶ崖資料館でテレビ局・BS11の取材があり、制作会社・テレパックの2名が来館しました。番組は10月からのBS11新番組「偉人・素顔の履歴書」の3回目武田信玄です。

取材は三方ヶ原合戦についての質問に対して、鈴木利雄副会長が答えるシーンを館内のジオラマ・激突の前で収録しました。インタビュー収録後、カメラマンが資料館にある三方ヶ原合戦関連のジオラマをじっくり撮影していました。

番組では「信玄の強さの秘密」「信玄流・人心掌握術」「信玄が夢見た天下」などが描かれるとのことです。武田信玄側からの戦いに関する見方は、大変興味深いです。BSが映るTVで視聴することができますので、みなさん視聴してください。

☆タイトル：偉人・素顔の履歴書

☆放送局：BS11（日本BS放送株式会社）

☆放送時間：2021年10月23日（土）

20時～21時予定

この番組では今後、徳川家康をテーマにする予定もあり、浜松での取材もあるとのことです。その時は当会への要請があれば協力を惜しまないことを伝えました。



インタビューに答える鈴木利雄副会長

広報部 春日康治（西ブロック）

会員の交流広場

TOKYO 2020 都市ボランティアを体験

8月第一週の3日間、静岡県三島駅で都市ボランティア活動に参加しました。皆さんは、オリンピックのボランティアに大会ボランティアと都市ボランティアがあることをご存じですか？競技場などで競技運営のサポート、メディアサポート、観客サービスなど大会運営を支えるのが大会ボランティアで、空港・主要駅などで観光客の案内をするのが都市ボランティアです。

三島駅は、伊豆修善寺駅近くにある自転車競技会場・伊豆ベロドロームの乗換駅になり、また自転車競技は観客を入れての開催になるので都市ボランティアが派遣されました。一日の中で、朝・昼・夜と3グループに分かれ、1グループはスタッフを含め10名位で活動しました。

今年の2月からオンライン研修を重ね8月にいざ本番を迎え、当日支給されたユニフォームに身を包み活動場所に行ったのですが、皆様ご存知の事情で三島駅周辺では観光客らしき人は見

かけず、ボランティアとして声をかける人もなく、オリンピックムードも盛り上がらない非常に寂しい活動となってしまいました。わずかに競技取材メディア用バス発着場が近くにあったので外国人にバス停を聞かれたのが唯一のボランティアらしい活動でした。

残り少ない一生の中でこのような機会は二度と訪れないかも知れませんが、チャンスがあり体が動けば又応募したいと思っています。



オリンピック看板の前で

東ブロック 鯨島裕太郎

会員の交流広場

TOKYO 2020 パラボランティアに参加

【トルシーダブラジル（ブラジル選手団サポーター）に参加して】

私がパラリンピックのサポーターのボランティアに関心を持ったきっかけは、テレビやウェブなどのメディア報道で興味をもったからです。

パラリンピックに関心をもって気付いたことは、パラアスリートのすごさに社会のバリアや障害を克服する力があると知ったことです。



ユニフォーム姿の筆者

私の担当は8月14日と21日でした。会場はアクトシティ展示イベントホールと佐鳴湖の漕艇場です。イベントホールではウエイトリフティングとボッチャ、佐鳴湖ではカヌー競技です。

そして佐鳴湖へ行くために自転車を購入して練習しました。これで準備良し。漕艇場ではコロナ禍の折、事務所2階のベランダからブラジル国旗や激励の寄せ書きの旗を振って応援しました。私の応援する言葉が通じるか心配でしたが、ポルトガル語のほかスペイン語でもある程度通じることが分かって安心しました。

最も重要なコミュニケーションツールは笑顔です。喋れないとか目が見えないのは、自分の心のバリアだと思い、自分がバリアにならないよう

に努力することを考えました。

パラリンピックの競技を知って、障害のある方に暗いイメージをもっていた自分が恥ずかしくなっていました。私より輝いている人ばかりでしたから！！自分に何ができるかを考えさせられました。受け入れがゴールではない！！

今回のボランティア活動を通じて《共に生きる社会をつくる》ことが大切だと感じました。



佐鳴湖の漕艇場ベランダで応援

※浜松市は東京2020オリンピック・パラリンピックブラジル選手団のホストタウンとして事前合宿を受け入れました。

中ブロック 石井知良

新連載 浜松城主の家紋

2021年1月に浜松城はリニューアルオープンし、3階の展望階の格天井に、新たに歴代城主等の12の家紋が展示されています。12の家紋に関してガイド活動に役立つ知識を当会研修部員が連載で解説します。第一回は「三つ葉葵・徳川家康」と「土岐桔梗・菅沼定政」です。



浜松城3階格天井



三つ葉葵・徳川家康

葵は植物では双葉葵しかなく、三つ葉葵は双葉葵をデザイン化したものです。家康時代の紋は軸部分が細く葉脈が多いです。時代と共に次第に軸が太くなり葉脈が少なくなりました。三つ葉の葵紋は徳川家の繁栄と共に少しずつ形を変えて用いられて、30数種類が存在しています。ちなみに第15代将軍徳川慶喜が謹慎していた上野寛永寺の部屋の壁、襖等には双葉葵が一面に描かれています。

葵紋のルーツについては、京都の賀茂神社の神紋(双葉葵)とされています。京都の三大祭の一つ「葵祭」は賀茂神社の祭りです。家康の出身地三河地方の内陸部には賀茂神社の神領が多いです。元来植物に三つ葉葵はありませんが、当時の人が家紋にするにはバランスがとれてかっこよく見える三つ葉葵紋を作ったと伝えられています。



土岐桔梗・菅沼定政

桔梗紋は昔から美濃(岐阜県)の土岐氏、明智氏の代表紋として知られています。ふくらみのある均整のとれた五弁花は、家紋の中ではもっとも美しいものの一つといわれています。桔梗はすがすがしい、手向けの花であり、そのうすい水色は家紋にも取り入れられて、数少ない色付きの紋の一つです。

菅沼定政(すがぬまさだまさ)の略歴

天文19年(1550年)に美濃国明智に生まれ、天文21年父土岐定明が斉藤道三との戦いで討死し、母方の出身地奥三河に逃れ、叔父定仙に養われて菅沼家を継ぎ菅沼定政となりました。永禄7年(1564年)14歳の時に叔父定仙に伴い徳川家康に拝謁し近習となり、23才の時に三方ヶ原の戦い、26才の時に長篠の戦いに参戦しました。天正10年(1582年)武田氏没落後、甲斐国切石1万石の大名になりました。天正15年に家康が駿府に移り、38歳の時に浜松城預役(城代)となりました。その後、天正18年下総国相馬守谷(1万石)に移封し、文禄2年(1593年)豊臣秀吉より従五位下・山城守に叙任し、慶長2年(1597年)47歳で没しました。

研修部 杉本忠久(南ブロック)

田んぼアート “アカウミガメ”

3.11 東日本大震災の年、「がんばろう日本!」を掲げて白脇地区住民で始めた田んぼアートも11年目を迎えました。今年は地元白脇小学校の生徒考案の「アカウミガメ」が「海をきれいに」のメッセージと共に南区寺脇町で実りの秋を迎えています。

広報部 金原里枝(南ブロック)



★お知らせ★

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月30日(日)まで「緊急事態宣言」が延長されました。従って当会では浜松城、浜松駅構内の浜松市観光インフォメーションセンター、浜松まつり会館及び犀ヶ崖資料館でのガイド活動を期間中は中止しました。

はままつ案内人会報 231号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL&FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



出世大名 家康くん

出世浪崎 直虎ちゃん